

第 19 回松阪市環境基本計画策定委員会

日時 平成 18 年 12 月 14 日（木） 13 時 30 分～15 時 00 分



場所 松阪市教育委員会 1 階会議室

議題

- (1) 「松阪市環境基本計画（最終案）」まとめ
- (2) その他

出席者 10 名

策定委員会委員 7 名

西 孝、石川通子、石村武紀、川村敏也、小坂滋子、松本美智、水本和雄

事務局 3 名

三田環境推進担当主幹、谷岡環境推進担当主査、若山環境推進係主任

議事の内容

- (1) 「松阪市環境基本計画（最終案）」まとめ

※ パブリックコメント等による修正箇所の確認。

P10「家庭や事業所による水質汚濁に加え」

⇒「家庭や事業所からの排出水による水質汚濁に加え」

P10「森林保全に関わることが期待される」

⇒「森林保全に関わることが求められる」

P14『二酸化窒素年平均値の推移（国道 23 号線 松阪曾原）』のグラフを追加。

P14「このことにより、排気ガスによる大気汚染など自動車起因する環境の負荷が懸念されています。」

⇒「現在の良好な大気環境をさらによりよくするためにも、自動車に起因する大気環境の負荷を軽減していくことが求められています。」

P24『ごみの排出量の推移』のグラフを追加。（縦長にする）

P25「オフィスなど民生（業務）部門からの排出が1990年度比で37.9%、民生（家庭）部門が31.5%と」

⇒「家庭部門における2004年の排出量は167.6百万トンと1990年（127.4百万トン）と比べ31.5%増と」

P26『日本の部門別二酸化炭素排出量の推移』のグラフを追加。

P54「「松阪市森林整備計画」に基づき、三重県や林業従事者と一体となって総合的・計画的に適切な森林整備を図ります。」の一文を追加。

P57「認定農業者制度の活用や集落営農組織等の確保・育成など」

⇒「「農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想」及び「松阪農業振興地域整備計画」に基づき、地域の実情に即した効率的かつ安定的な」

P57「棚田など貴重な農業景観の保全に～」

⇒「耕作放棄地の発生を防止するとともに、既耕作放棄地の復旧又は林地化を支援します。」

P58「大気汚染物質における監視体制の充実を図る」

⇒「大気汚染物質における監視体制の適正化を図る」

P60「ダイオキシン類や環境ホルモンなど、新たに注目」

⇒「ダイオキシン類、環境ホルモンやアスベストなど注目」

P63『市場庄の町並み』の写真を『天白遺跡』に変更。

P64「景観マスタープラン等の計画作成を進める」

⇒「「松阪市景観マスタープラン」の策定を進める」

P65「緑地の保全と緑化の推進を総合的かつ計画的に行うため「松阪市緑の基本計画」の策定に取り組みます。」の一文を追加。

P69「廃棄物の3R（リデュース・リユース・リサイクル）を総合的に推進するため、長期的な計画により」

⇒「「松阪市一般廃棄物処理計画」に基づき、長期的かつ計画的な視点に立って」

P70「「新エネルギービジョン」の策定」

⇒「「松阪市新エネルギービジョン」の策定」

P81「環境パートナーシップ会議」について、具体的な組織づくりの文言を追加した。

委員長：P81、82のところでは何かありますか。

委員：市民活動センターが一般市民に広くPRされていない。一部の人しか知らない。

委員長：来年度からこのような組織を作っても、一度に何もかもは無理であり、上手くいかないと思う。徐々にこなしていかないと。

委員：私の町内の人でも、この市民活動センターを知らない。飯南や飯高の人は、なおさら知らないと思う。商店街の中心部に拠点を置いているのだから、もっと行政もPRすべき。

事務局：P82に書いたように、「情報共有を効率的に図るシステムづくりの支援」は既に市民活動センターの中にあるので、それを有効に使うのも一つの支援策である。

委員：そのような活動をしていることも含めて、各振興局の地区センターにもPRして仲間作りを進めていくといいと思う。市民センターには200以上の団体が登録しているが、会議室の利用料金が安いので登録している自治会や町内会もあるため、実際に活動している団体は少ないと思う。

委員長：4月以降こういう組織をやっていくということ、その活動をこんな形でどうでしょうか、という提案の部分ですね。なので、このように付け加えたということです。

委員：組織の成熟度は、誰が評価するのか。

事務局：要は、皆で話し合っ。この2番目と3番目は微妙に重なっているので、『成熟度』というのが果たして相応しいのかどうか。今までは「～会議」というのを立ち上げて、年に2・3回集まって形骸化していくというのがほとんどのパターンだった。そうではなくて、入り口は小さくても段階を追って出来ることから拓げていく、また、常に新しい事を考えていくことで、持続

的に発展していく組織ということが大事。偉い人を沢山集めた連絡会議ではなく、団体や個人で出発していく方が良いのではないか。『成熟度』に代わる良い言葉が思いつかなかったのだ。

委員長：特に問題がある言葉ではないのでは？

委員：市長の関わりあい、姿勢はどうなのか。市にとっては市長のリーダーシップが大事。計画書の最初のページに、写真入りで市長の言葉を載せたらどうかと思う。

事務局：それは入ると思う。

委員：市長は、緑の週間の時には駅前で花の種を配っている。これは素晴らしいと思う。あのリーダーシップが、これからの「パートナーシップ会議」にも必要だと思う。今度の愛知県知事に立候補した犬山市長が、「市長はベルガーマイスターである」と言っている。『ベルガーマイスター』とはドイツ語で『市長』だが、直訳すると『市民の先生』という意味。市長とは市民の代表者であるので、是非とも計画書の最初のページに載せて欲しい。

委員長：ここに関してはよろしいか？

委員：「環境パートナーシップ会議」開催の時も、市長の挨拶が必要だと思う。

委員長：P81、82に対してのご意見は？

委員：リーダーは市長じゃないほうがいいと思う。松阪市は地域差が大きいので、各地域で活動拠点を設けて、その中から松阪市全体の場所があれば、細かい活動が出来ると思う。

事務局：松阪市は広いので、そういうことも考えられる。それは、集まった皆さんで考えていただいて。

委員：本当に活動しようと思ったら、小さい範囲で始めて。

委員：その方が判りやすい。

委員：市民活動センターまで行くには車が必要になる。やはり、各地域内で歩いて集まれる場所があれば。

委員：嬉野や飯南にも、市民活動センターのような場所があるのか？

委員：公民館がある。嬉野の場合は、今までは中央公民館があったが、今は各公民館のレベルが同じになった。どこか中心になる場所があって、集まる事が出来たらいいと思う。同じレベルはやりにくい。

委員：各地域で活動している団体が、行政の呼びかけで年に1回でも意見交換を行って活動を広げていく、というのが市民センターの役割だと思う。市民活動センターに多くの団体が名乗りをあげていただいて、活動を広げていくのが一番いいと思う。リーダーを決めろと言われても難しい。ゴミの減量化やリサイクルでも、旧松阪市と他の地域とでは方法が異なる。それを松阪市一本で進めろと言われても、問題点が一杯でてくると思う。各地区でまとめて、

代表者がここへ寄ってくる。そんなやり方を進めていくリーダー、アドバイザーが必要。

事務局：今後「パートナーシップ会議」を上手く進めていく上でも、他市の事例を研究、比較していくことが必要だと思う。

委員長：「パートナーシップ会議」は、必ずしも市全体で一本にまとめない方がいいのか。その辺の検討は必要かも。

事務局：いろんなパターンが考えられるが、最初のうちは程度に応じて組織分化していくと思う。

委員：県民局は交流だけで、その後がなかなか進まない。

事務局：あれも、次のステップの事を言っていなかった。やっていることは素晴らしいが、次のステップが踏めないのはちょっと。

委員：担当が代わってしまうから。

委員：松阪の県民局は進んでいるほう。

事務局：交流会も、県内では最も進んでいる。

委員長：進んでいるほうでも、まだ交流期止まり。

委員：イベント参加が松阪市全体で50人位でも県民局は満足している状態なので、なかなか浸透していかない。それでもまだ進んでいるほう。

委員長：県がそういう状態なら、市もやれる余地は一杯ある。その辺は、皆さんの知恵と力をお借りしてやっていかないと。他にどうでしょうか？市がひとつの「パートナーシップ会議」をやるという前提で書いてあるが、もう少し詳しく書き込んで、必ずしも一本化ではなくて各地域管理にもあっていいという位の事も書いておくかですね。それとも、ここではこの位にしておいて、次のステップへ行く時に検討してもらおうかですね。

委員：具体的には難しい。全体像を提案して、後は市役所の方に考えてもらって。

委員長：これはこのままでいいですか。では、策定委員会が作る計画案としてはこれで。

事務局：これを最終案として、審議会に提出します。

委員長：どうもありがとうございました。

委員：中間案には策定委員会の名前が出てこないが。

事務局：最終案には、今までの会議の経過と策定委員会のメンバーも載せます。全体では150ページ程度になります。

委員：中間案の最終案？

事務局：これを差し替えて、最終案として審議会の方に提出します。

12月19日部長会議にて最終確認。

1月10日環境審議会後、大幅修正あれば11日に策定委員会にて調整し、微小変更ならば委員長に一任。

1月中に計画書を策定委員会から市長へ提出。

1月中～下旬に審議会開催後、会長が市長に意見を述べる。

その後、市議会全員協議会を経て、計画書の完成。

(2) その他

事務局：「パートナーシップ会議」設置にあたり、「パートナーシップ会議 自主研究会」を立ち上げたい。事例研究を中心に言いながら、参加者と一緒に勉強していく予定。策定委員会の方々にも、無償になるが是非とも参加して欲しい。日程は1月～3月で、月1～2回程度。1回目は1月11日。市民活動センターの米山さんの参加もお願いしている。

委員：集まって何をやるのか？どういった目的で行うのか？

委員長：皆さんが参加したくなるように、判り易く説明して欲しい。

事務局：「環境パートナーシップ会議」は、松阪市にとって初めての取組みになる。そこで、他市の事例を研究することから始めようと思う。市民活動センターのアンケートでも参加希望団体があるので、その方達も一緒にやっていくことや、三重中京大学の地域社会研究所の寺本先生のお話も考えている。松阪市のパートナーシップ会議に相応しいものを考えていくために、皆様のお力をお借りしたい。

委員：1月11日の時間、場所は？

事務局：13時30分から、この場所で。

委員長：全部で何回？

事務局：月2回で、全部で5、6回程度。

委員長：そんなにやることがあるのか。

事務局：我々は未熟なため、皆様のお力をお借りしたい。よろしくお願いします。

委員長：ボランティアのため無償になりますが、皆さんよろしくお願いします。

委員：1月の後の日程は？もう決めておけば？

事務局：2月8日、3月8日の第2木曜と決めておきます。それ以外は、また調整の上お知らせします。

委員長：それでは、これでありがとうございました